

多言語世界のための ザルツブルグ声明

今日の相互に関連し合う世界において、複数の言語を話し、言語の壁を超えて交流する能力は重要なスキルである。断片的であれ、一言語以上の知識は有益だ。母語以外の言語能力は、グローバル・リテラシーの新しい形である。言語学習は老若男女全ての人々に広がるべきものである。

しかし、地球上の何百万人の人々は、自己のアイデンティティである地域社会の言語を保持し、楽しみ、そしてさらに発展させるという生来の権利を否定されている。この不当性は多言語社会、そして多言語を使用する個人を支援する言語政策によって是正されるべきである。

我々、ザルツブルグ・グローバル・セミナー「才能への第一歩: グローバル化した世界における言語習得と融和」(2017年12月12日~17日: salzburgglobal.org/go/586)の参加者は、多言語主義及び言語権を評価し、支持する政策の実現を訴える。

「多言語世界のためのザルツブルグ声明」は包括的報告書並びに主要テーマを取り上げたブログで2018年に発信される。

我々はこのような世界に住んでいる：

- 全193国連加盟国及び大半の人々は多言語を使用している。
- 現在世界中で7,097言語が話されている。^{*}
- その内2,464言語の存続が危ぶまれている。
- 23言語が支配的で、世界人口の半数以上が使っている。
- 人口の40%は自分が理解する言語で教育を受けることが出来ない。
- 6億1千7百万人の子ども及び若者が最低限の読む能力を習得出来ない。
- 2億4千4百万人は国際移民であり、そのうち2千万人は難民で、その数は2000年より41%増加している。移民と難民だけで世界で5番目に人口が多い国家を形成することになる。

我々の世界は真に多言語使用であるにも関わらず、多くの教育や経済体制、市民権取得の手続き、行政などにおいて、何百万人もの人々が、話す言葉や言語能力のために不利益を被っている。2015年に193カ国が「貧困に終止符を打ち、地球を保護し、全ての人々の繁栄を保障する」ために掲げた「持続可能な開発目標」を達成するためには、我々はこの問題に取り組みなければならない。公正で確固たる言語政策に基づく公平な教育制度は、包括的進展のための基本である。

原則

- 多言語主義とは、明示的な言語指導、及び多言語社会において使用される非公式のコミュニケーションパターンの両方を意味する。
- 複言語主義とは、個人の複数の言語知識を指す。
- 歴史的、地理的、及び社会・経済的環境は、様々な形の多言語主義、及びその使用をもたらす。
- 多言語教育、そして国家と国際機関による社会的多言語主義への支援は、知識交流並びに異文化理解を促進し、国際関係を強化する。

目標を定めた言語政策は社会的団結の促進、教育成果の向上、及び経済的発展を促すことができる。加算的言語習得法は、子ども達に母語で読み書き能力を確立させ、地域社会が地域言語のアイデンティティ、知識、信条を保持するのを助け、そして個人的、娯乐的、文化的、又は経済的恩恵を生み出す新しい言語を習得する機会を作る。多言語政策は言語の多様性のための特有で貴重なリソースを保持し、経済的、社会的、政治的に有益な変化を世界にもたらすことができる。

我々は個人、企業、団体及び政府に対し、言語の多様性を国際標準として賞賛、促進し、言語差別に立ち向かい、そして多言語主義を推進する言語政策を開発するという多言語主義的な考えを取り入れることを求める。

勧告

政策立案：

有効な言語政策には専門家の助言及び地域社会における関係者の積極的な参加が必要である。社会における言語についての合理的で明確な決定には以下の点を含む：

- 現実的で実現可能な、明確な目標について協議する。
- 全ての関係者が政策立案の過程に加わる。特に教師は全ての段階において重要な役割を果たす。
- 就学前教育から、就学後、非公式及び生涯教育、と順序立てて立案する。
- マイノリティ・コミュニティの母語の保持、学習、使用を含む、全ての言語資産とニーズに焦点を当てる。
- 母語や他の言葉の学習についての教育・認知学研究が提示する見識を活用する。
- コミュニケーション・テクノロジーの可能性を生かす。
- 政策の完全実施に必要なリソースを確保する。
- 政策目標と実施について監視し、定期的に評価を行う。

教育と学習：

言語政策の全貌は、社会的、経済的、文化的、そして教育的である。言語の生涯学習は、社会が多言語主義を維持し、多言語主義から恩恵を受けるために必然である。教育・技能・労働政策は、言語の多様性を高く評価しつつ、全ての人々のための言語学習を促進・承認するべきである。子供も大人も、生涯を通して言語能力を培い、伸ばすことができる、総合的で継続した機会に恵まれるべきである。

伝統的及び新しい知識体系を含み、そして現代のテクノロジーを活用する、新しい教育のパラダイムが必要である。能動的言語学習の場は、学校や高等教育機関以外にもある。路上や、家庭、ソーシャルネットワーク、デジタル環境、難民支援環境など、どこにおいても言語学習とその重要性の認識を積極的に促進することができる。

翻訳と通訳：

これらサービスは多言語社会において、公共サービス並びに情報交換を企画し提供する上で不可欠である。医療、教育、経済、法的環境における公平な参加は、無償で提供される専門家による言語仲介が前提となる。

実施要請

変化を推進することが出来る関係者は研究者や教師を始め、コミュニティ・ワーカー、市民社会及び民間非営利団体、文化・メディアの声、政府及び公務員、業界、支援・開発団体、基金や信託などがある。我々は全ての関係者に下記の支援を求める。

- 多言語主義並びに複言語主義に対して前向きな姿勢をもった、結束力が強く活力のある社会を支援する言語政策、実践、テクノロジーを開発すること。
- 公文書並びに公報における言語権、多様性、及び市民権を積極的に支援すること。
- 言語とリテラシーに関連するいかなる差別、偏見、不平等に立ち向かうこと。
- マイノリティ、移民、難民は、我々の現在そして未来の社会に重要である高い言語資源を持ち備えていると認識すること。

それぞれの関係者グループは、独自のやり方で、社会の発展、社会正義、及び市民参加のための多言語主義を受け入れ、支援することが出来る。文化と知識の宝庫である多言語主義を次世代のために守るべく、我々は共に行動を起こす事ができる。

*統計はeducation.salzburgglobal.org/statements を参照。